



POWEARTH

Power of Our Mother Earth

メロングリソدينを増やし、新成分も配合。
新しい若返りの為のプロトン・サプリメントです。

当社比：1粒当り
メロングリソディン **3倍**

『MGパワース』。話題沸騰の成分＝注目の成分メロングリソディンを一気に増やし、価格を抑え実質的に増量しました。コエンザイムQ10ほか赤ワインの抽出成分レスベラトロール、そして北欧に野生するビルベリーなど配合成分の質と種類も自慢のひとつです。時代が求めるサプリメント、時代をリードするサプリメントとして安心の新製品です。これはスターライズの「新しい世界基準」なのです。

■配合成分

- メロングリソディン
- ビルベリー果実抽出物
- コエンザイムQ10
- 赤ワインエキス(レスベラトロール)
- 黒胡椒抽出物(バイオペリン)
- ルテイン その他

アソシエイト価格	5,250円
プロトン倶楽部(愛用会員)価格	5,670円
希望小売価格	6,825円

4,000ポイント



■GliSODin®(メロングリソディン)は、南フランス、アヴィニオン地方で栽培されているヴォークルシアン種(通常のメロンの8倍の抗酸化力)を、特別に品種改良したメロンから抽出した抗酸化酵素(SOD)を、小麦抽出物のグリアジンでコーティングした、今までのSOD様物質とは全く違う特徴を持つ次世代素材です。

■最先端の美容法をいち早く取り入れることで有名なハリウッド女優たちも注目しているのが、「メロングリソディン」が配合されたサプリメントです。

■メロン抽出物は、世界各国の学者により研究され、2008年ノーベル生理学・医学賞を受賞したリュック・モンタニエ博士も、国際エイズ学会で臨床データを発表している信頼された素材です。



世界エイズ研究予防財団理事長
リュック・モンタニエ博士



■メロングリソディンの特徴

小麦抽出物グリアジンに保護されているため、胃酸・消化酵素での影響を受けずに腸まで達する。

国際特許取得 特許第3856825号

国際特許取得 特許第3875022号

アメリカFDAファンクションクレーム

■下記の写真は、GliSODin®(メロングリソディン)の原材料**ヴォークルシアン**とごく普通のメロンの抗酸化力を比較実験したものです。普通のメロンは4日目で形が崩れ始めますが、ヴォークルシアンは一週間以上経過しても原型をとどめるところか、みずみずしささえ感じます。

■これはヴォークルシアンが自ら持つSODの抗酸化作用の現れです。普通のメロンも成分中にSODが含まれていますが、**ヴォークルシアン**はそれと比較にならないほど、SODが豊富に含まれています。GliSODin®(メロングリソディン)の開発はこの豊富なSODを有効利用することから始まりました。

■ヴォークルシアンメロンに含まれるメロングリソディンは、スーパーオキシドディスムターゼ(SOD)を多く含み、強い抗酸化力を持っています。また、投与後2週間で他の代謝酵素(SOD、カタラーゼ、グルタチオンペルオキシダーゼ)を活性化します。体内の抗酸化酵素の活性率は、

■SOD→189% ■グルタチオンペルオキシダーゼ(Gpx)→151% ■カタラーゼ→271%

メロングリソディン®
に使用されているメロン



1日目

4日目

7日目

12日目

従来種メロン



GliSODin®(メロングリソジン)摂取による循環血中の抗酸化酵素活性に対する効果《パリ第六大学/パリ国立病院、国立健康医療研究所(INSERM)》

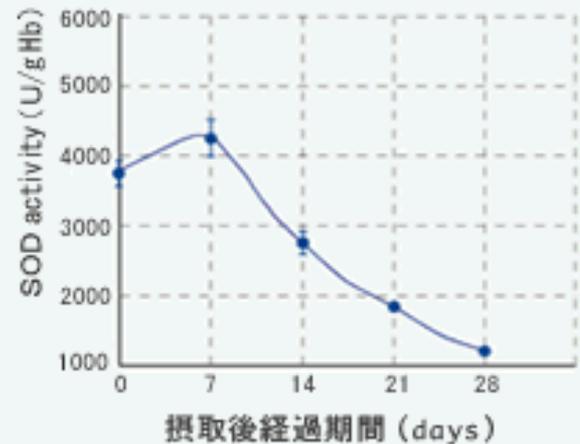
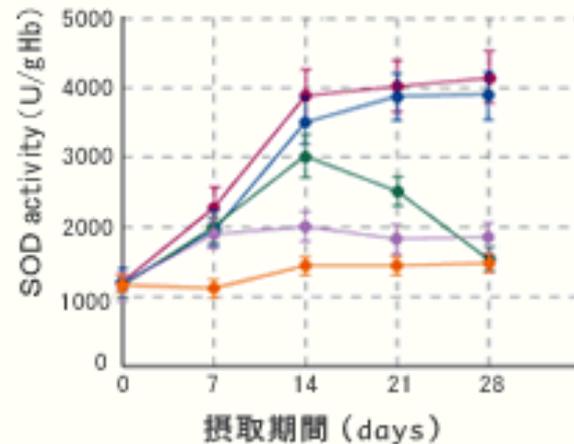
●概要

6～8週齢のマウス(体重:25～30g)に、0.5、1.0および5.0mgのGliSODin®(メロングリソジン)を毎日強制投与し、28日間飼育した。マウスは7日毎に採血し、赤血球中のSOD活性を測定した。

●結果

1.0mgおよび5.0mg/マウスの投与群で顕著なSOD活性の上昇が認められた。コントロール群との差は14日から大きくなった。また、赤血球中のCATおよびGPx活性も同様な傾向を示した。

● Control ● GliSODin®(メロングリソジン) 0.5mg ● GliSODin®(メロングリソジン) 1mg
● GliSODin®(メロングリソジン) 5mg ● GliSODin®(メロングリソジン) 10mg



摂取期間 (28 Days)	SOD (U/gHb)	Gpx (U/gHb)	カタラーゼ (kU/gHb)
コントロール	1720 ± 125	800 ± 33	35 ± 5
GliSODin® (メロングリソジン) 1mg	3250 ± 255	1210 ± 89	95 ± 6

肝線維症(肝硬変モデル)に対するGliSODin®(メロングリソディン)抗線維症活性

●概要

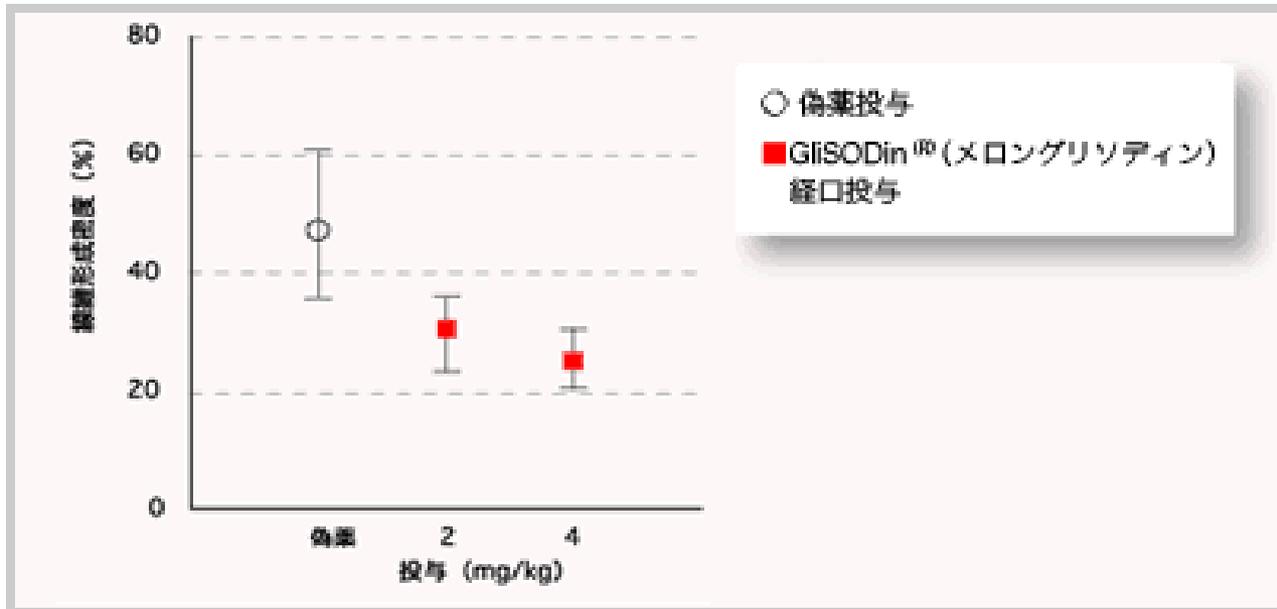
肝炎ウイルス、アルコール、感染、寄生虫など、さまざまな原因によって慢性肝臓病が引き起こされる。肝線維症は、慢性肝臓病の進行中に発生する。肝硬変モデルのラットによる研究より、GliSODin®(メロングリソディン)は抗線維症に有効であることが明らかになった注目すべき研究である。

●研究方法

マンソン住血吸虫に感染させ肝臓に線維症(肝硬変モデル)を発症させたラットにGliSODin®(メロングリソディン)を経口

●結果

GliSODin®(メロングリソディン)は、強力な抗線維症作用を持つことを示している。また、この作用は用量依存性であることも分かった。



マンソン住血吸虫に感染させ肝臓に線維症(肝硬変モデル)を発症させたラットにGliSODin®(メロングリソディン)を経口

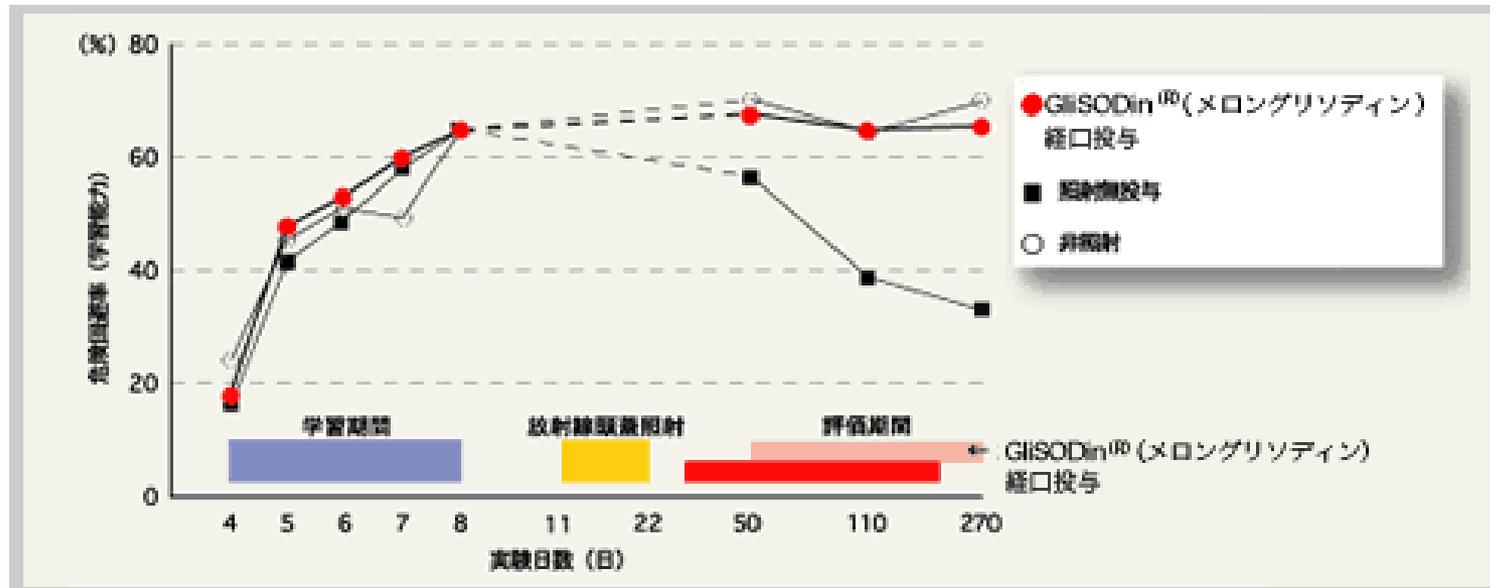
知的障害に対するGliSODin®(メロングリソディン)の効果

●概要

放射線は、活性酸素の発生を増大させる原因となる。放射線による細胞障害性の原因が活性酸素である。脳障害モデルラットを用いた研究では、頭蓋骨へ放射線を照射した。ラットにGliSODin®(メロングリソディン)を投与すると、対照群と比べ、行動障害を軽減させることが示唆された。これは、GliSODin®(メロングリソディン)の抗酸化活性と抗ストレス作用が組み合わさったことに関与すると思われる。このことから、急性期だけでなく、遅発性の合併症の軽減も期待できる。今後の研究を待つところである。

●結果

GliSODin®(メロングリソディン)投与の結果、放射線照射により引き起こされた知的障害が軽減された。これは、内因性 SODが増大し、放射線によるフリーラジカルの発生が抑制されている可能性を示唆している。



頭蓋骨への放射線照射による脳障害モデルラットの危険(電気ショック)回避実験

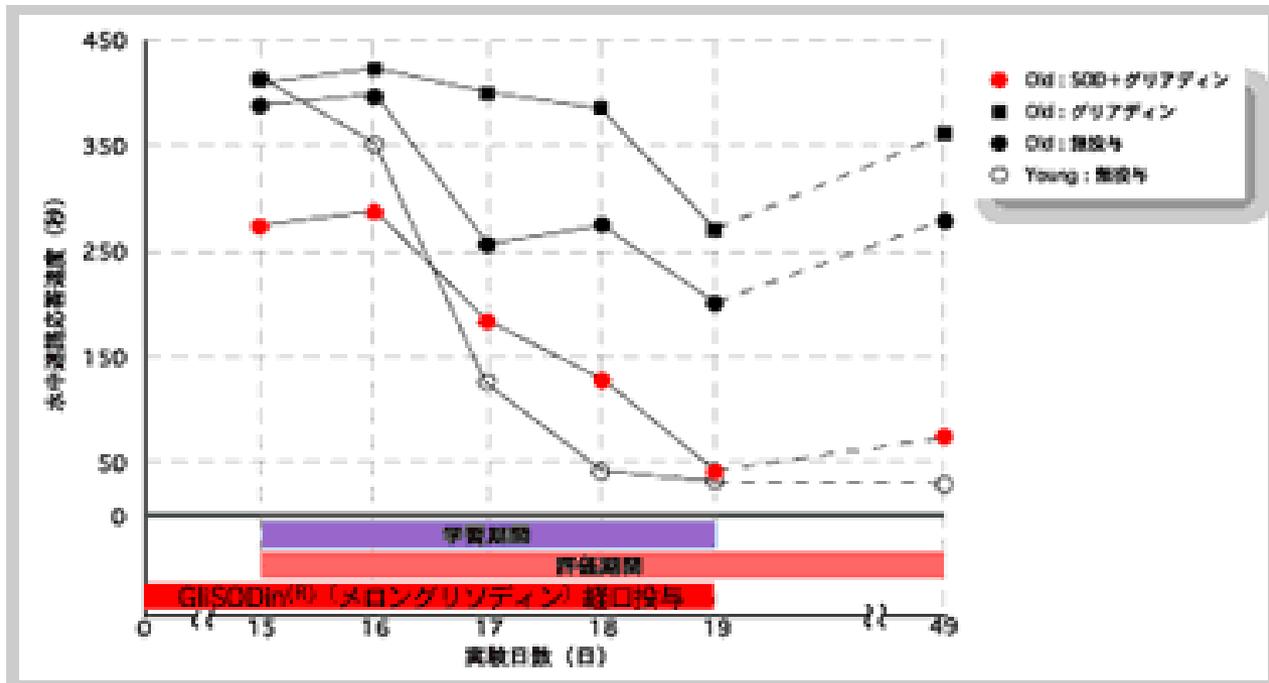
老化に伴う認知力衰退に対するGliSODin®(メロングリソジン)の効果

●概要

年老いたラットと若いラットの学習能力を比較したこの研究では、GliSODin®(メロングリソジン)を投与した年老いたラットが若いラットまったく同等まで学習能力を向上させたこと示唆している。GliSODin®(メロングリソジン)を投与しなかった対照群の年老いたラットでは、学習能力の向上は見られなかった。

●結果

GliSODin®(メロングリソジン)の投与の結果、年老いたラットの学習能力を向上させていることを示唆している。



若いラットと高齢ラットの水中迷路脱出テストによる学習(認知)能力実験

酸化ストレス負荷が引き起こすDNA損傷に対するの保護効果

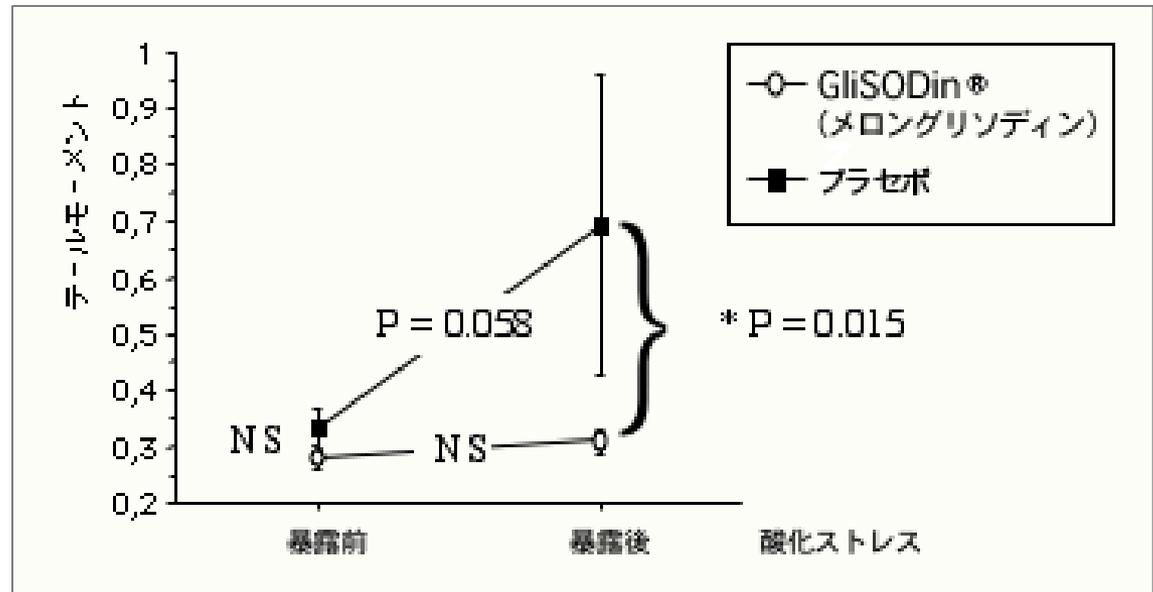
●概要

健常者にGliSODin®(メロングリソジン)を14日間摂取させ、その後高圧酸素環境による酸化ストレス負荷を実施した。この酸化ストレス暴露前後に血液サンプリングを行い、DNA損傷をコメットアッセイで評価した。グラフ中のテールモーメント(縦軸)の伸長がダメージの大きさである。

GliSODin®(メロングリソジン)非摂取群では、酸化ストレス負荷によるDNA損傷が見られたが、摂取群ではDNA損傷が殆ど見られなかった。

●結果

外的な酸化ストレスが引き起こすDNA損傷を予防する効果が確認された。加齢や様々な疾患に対するの根本的な予防・改善に繋がる報告である。



酸化ストレスが引き起こすDNA損傷

紫外線照射が引き起こす肌炎症に対する効果

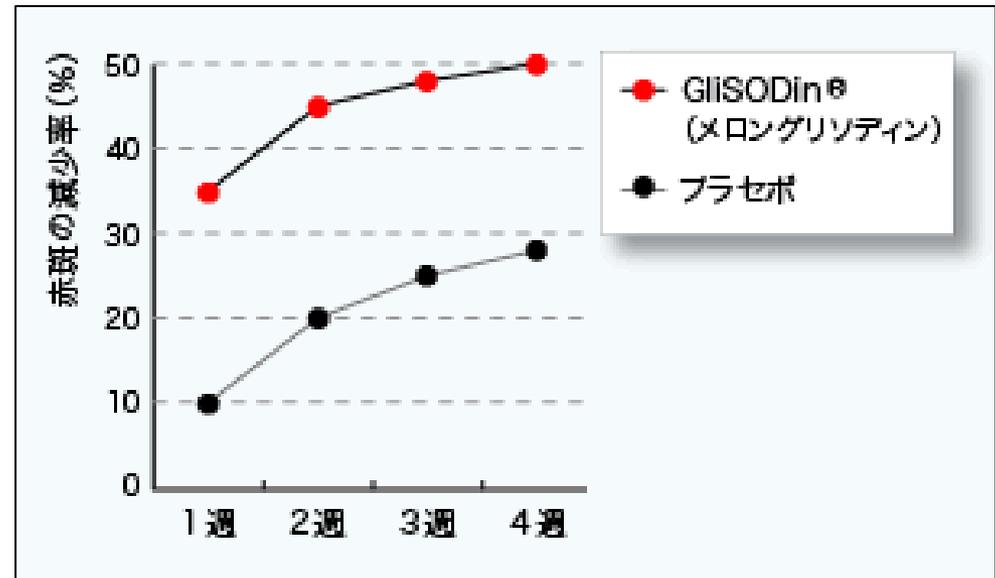
●概要

健常者にGliSODin®(メロングリソジン)を4週間摂取させ、この投与期間前/後にMED(紅斑を形成する最少の紫外線量:最小紅斑線量)を計測。MED値によって紫外線に対する紅斑感受性を評価した。

GliSODin®(メロングリソジン)の摂取によってMEDが上昇した。また、非摂取群と比べて摂取群は発赤がより早く減少した。さらに、摂取群の被験者は赤斑部の毛細血管数がより早く増加し、回復反応性がよりすぐれていることが確認された。

●結果

日光による肌炎症の改善効果を、数値による客観的な評価によって裏付けた臨床報告である。MEDの上昇は紫外線に対する皮膚過敏性の改善を意味しており、GliSODin®(メロングリソジン)の肌炎症トラブルに対する皮膚の保護効果が明らかとなった。



紫外線照射が引き起こす肌炎症に対する効果

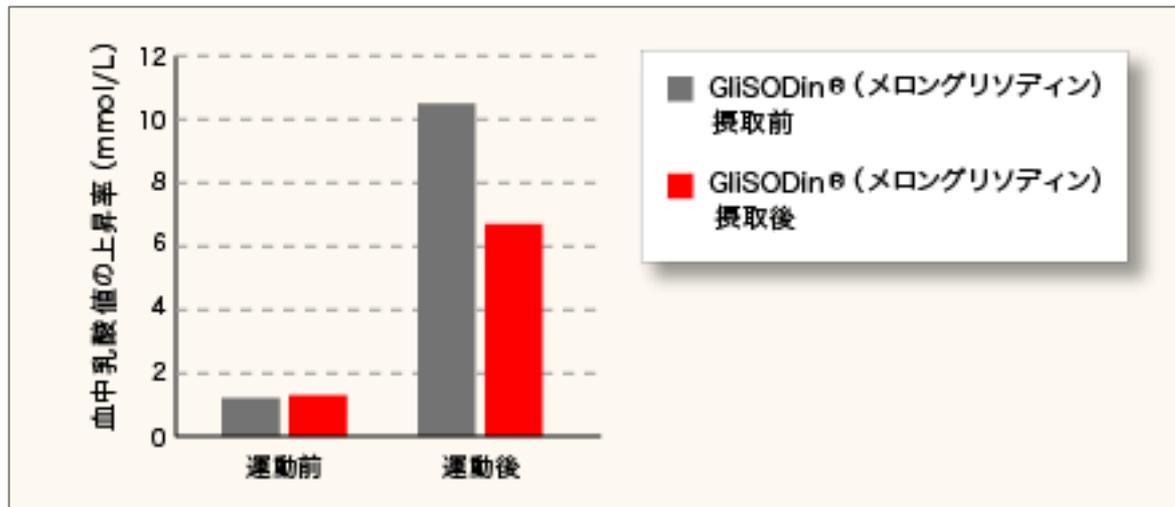
激しい運動負荷が引き起こす血中抗酸化酵素と血清中乳酸値の変化に対するGliSODin®(メロングリソディン)摂取効果

●概要

健常者にGliSODin®(メロングリソディン)を4週間摂取させ、この摂取前/後それぞれで高い強度の運動負荷試験を実施した。運動前後で血液サンプルを採取し、乳酸値を比較した。運動による乳酸生成量は、GliSODin®(メロングリソディン)投与によって優位に減少した。

●結果

GliSODin®(メロングリソディン)の摂取によって、**激しい運動負荷が引き起こす乳酸の生成量を抑えることができる。**



激しい運動負荷が引き起こす血中抗酸化酵素と血中乳酸値の変化に対する効果

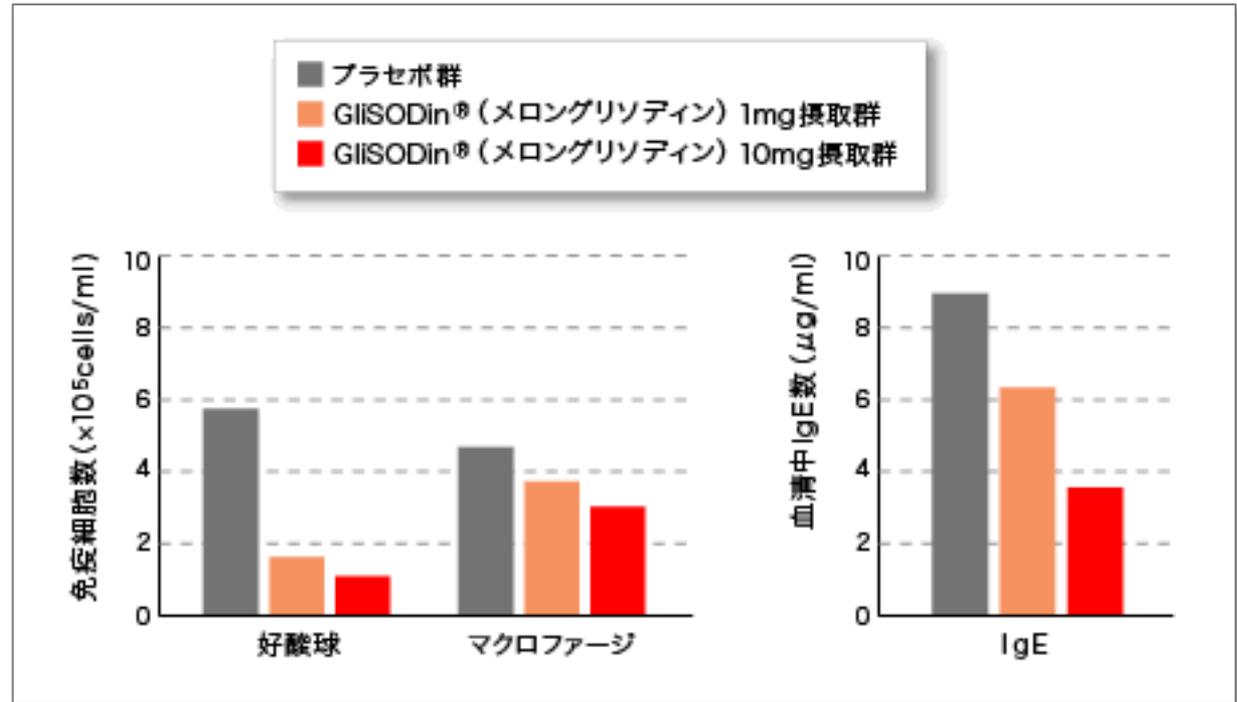
アレルギー反応の抑制

●概要

Balb/c系マウスに対してOVA(オボアルブミン:抗原)感作を施し、このマウスを14日間後に再びOVAにて免疫した。その後GliSODin®(メロングリソディン)投与によって1週間飼育した後、OVAを含む霧の中に3日間放置。肺組織や血中での免疫細胞と免疫グロブリン量の変化を比較した。GliSODin®(メロングリソディン)投与群は、各免疫細胞及びIgEの発現が低値であった。

●結果

GliSODin®(メロングリソディン)の摂取によって組織の過剰なアレルギー反応が抑制されていることが確認された。



アレルギー反応の抑制

関節炎への効果及びグルコサミンとの相乗効果

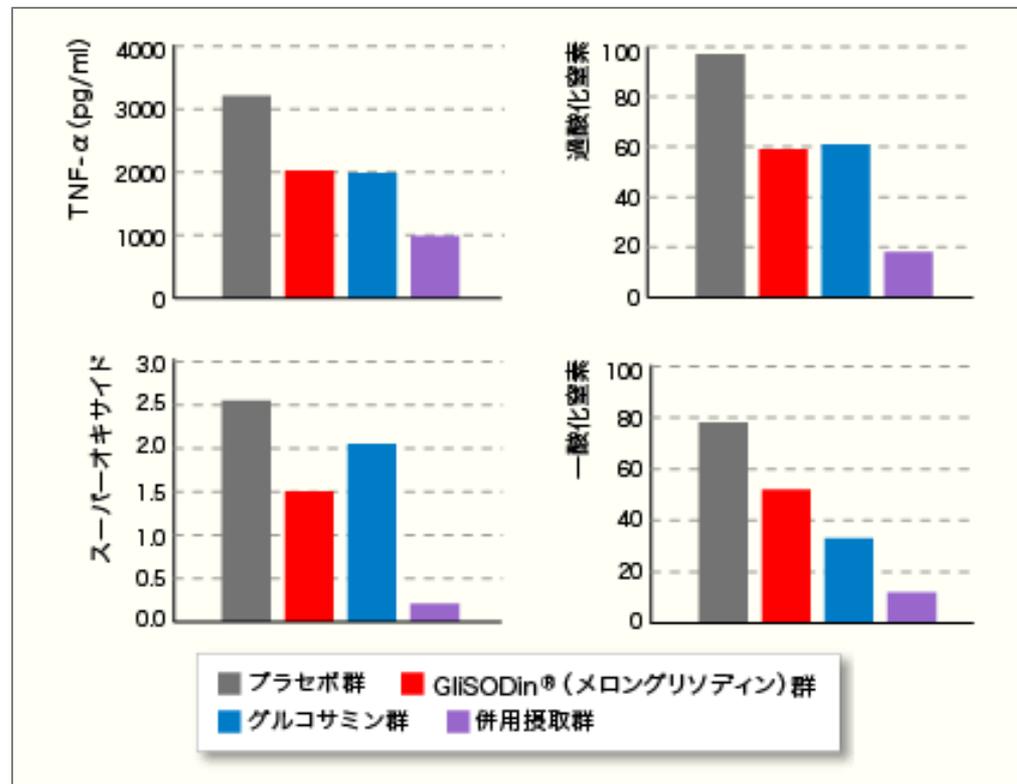
●概要

C57B16系マウスの腹腔内にLPS(炎症誘発因子)を注入し、腹膜炎モデルマウスを作製した。このマウスをGliSODin®(メロングリソジン)とグルコサミンの併用摂取群/非併用群/プラセボ群に分けて28日間飼育した。飼育期間終了後、腹腔マクロファージを採取し、炎症部位の免疫細胞による炎症性サイトカイン及び活性酸素種の自然産生能を計測した。

いずれの投与群においても、TNF-α・NO・スーパーオキシド・過酸化窒素が優位に減少した。また、その効果はGliSODin®(メロングリソジン)×グルコサミン間で相乗的に発揮された。

●結果

GliSODin®(メロングリソジン)の摂取によって炎症性サイトカイン産生が抑えられた。炎症に対するの改善効果が確認される報告である。また、グルコサミン併用によって相乗的な効果が確認されたことから、関節炎に対して有用な効果が期待できる。



関節炎への効果及びグルコサミンとの相乗効果

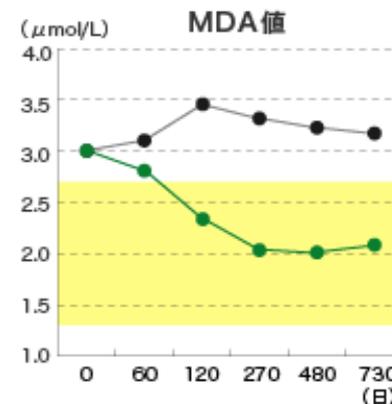
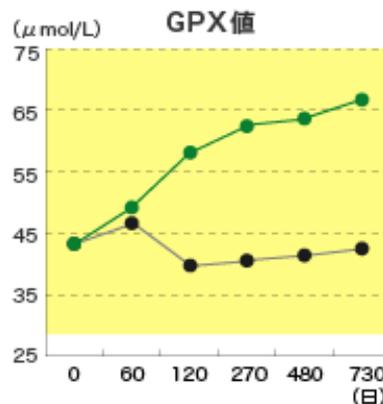
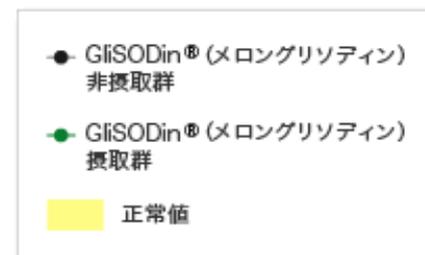
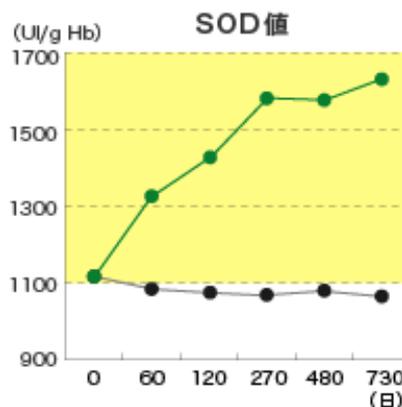
メタボリックシンドロームが引き起こす動脈硬化症の予防・改善効果

●概要

年齢、血中パラメータ、遺伝リスクなど、動脈硬化症のリスクを呈する被験者34名(男性23名、女性11名)を招集した。彼らは皆、食事管理及び生活習慣を受け、1年間に渡る事前の準備期間によって条件を一定にされた。被験者を二群にわけ、GliSODin®(メロングリソディン)摂取/非摂取群として二年間の投与を行なった。血中の抗酸化指標、及び頸動脈壁の肥厚(IMT値)を計測した。

●結果

GliSODin®(メロングリソディン)の摂取によって体内の抗酸化酵素(SOD、GPX)が誘導され、血中の脂質過酸化(MDA)が抑えられた。更に、脂質過酸化の抑制の結果として、動脈壁の厚さ(IMT)の低下が確認された。ヒトに対する長期投与を行なった厳密かつ大規模な研究によって、GliSODin®(メロングリソディン)の確かな有効性が確認された。**GliSODin®(メロングリソディン)の摂取によって、メタボリックシンドロームが引き起こす動脈硬化/循環器系疾患の予防改善効果が期待できる。**



メタボリックシンドロームが引き起こす動脈硬化症の予防・改善効果

●概要

北欧の代表的な野生種ブルーベリー「ビルベリー」は、果実の直径が6～8mmととても小さなツツジ科の植物です。ブルーベリーと節が異なるので厳密にはブルーベリーとは区別されることもありますが、生育状態や粒の大きさなど似ている部分が多いローブッシュブルーベリーの仲間として一般的に扱われます。果実の収穫時期は7月の終わりごろで、果肉が軟らかく、酸味が強いのが特徴です。

ビルベリーは果肉の中まで色素が濃い品種であり、青紫色の天然色素アントシアニンの含有量が非常に多く、さらに、特に強い抗酸化作用を持つデルフィニジン系やシアニジン系のアントシアニンを豊富に含んでいます。また、各種アントシアニンのバランスも、ほかの品種に比べて、大変よいことが知られており、医薬品やサプリメントにエキスとして利用されています。**ヨーロッパで医薬品として認可されているのは、このビルベリーのエキスだけなのです。**



白夜が育んだとも言われる北欧産植物ビルベリー



FloraGLO®ルテインはケミン・ヘルスの特許製法により、マリーゴールドの花から抽出・精製・結晶化した天然素材で、人間の身体に存在するルテインと同一のものです。

マリーゴールドから抽出したままのマリーゴールド・オレオレジン(エステル体)を精製および結晶化することで、汎用性の高い製品が実現しました。

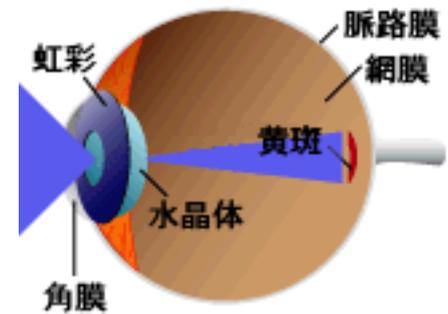


ルテインとは強い抗酸化作用を持つカロテノイドの一種で、ほうれん草やブロッコリーなどの緑黄色野菜に多く含まれる成分です。人間の体内器官や皮膚にも存在し、乳房や子宮頸部に多く存在することが知られています。

植物中のルテインの抗酸化効果は強力で、太陽光線のもとでルテインが欠乏すると植物は数分で死んでしまいます。

ルテインは、目や皮膚などに存在していますが、体内では生成できない栄養素です。つまり、人の身体はルテインを消費しますが、作り出すことはできないのです。

ルテインは、健康な黄斑と網膜のための大切な要因である黄斑色素濃度を高める働きがあります。そのため、ルテインが含まれる果物や野菜を多く食べると、加齢黄斑変性(AMD)や白内障のリスク軽減につながるということがわかっています。また、黄斑色素濃度は眼球水晶体の透明度に関係しています。



ルテインは健康に役立つ成分として注目されています。

【ルテインを含む食品】

ルテイン(Lutein)とは強い抗酸化作用を持つカロテノイドの一種で、ほうれん草やブロッコリーなどの緑黄色野菜に多く含まれる成分です。人間の体内器官や皮膚にも存在し、乳房や子宮頸部に多く存在することが知られています。特に眼の水晶体と黄斑部に存在する主要なカロテノイドはルテイン(Lutein)とゼアキサンチンであるため、これらの部位が正常に機能するために重要な働きを果たしています。

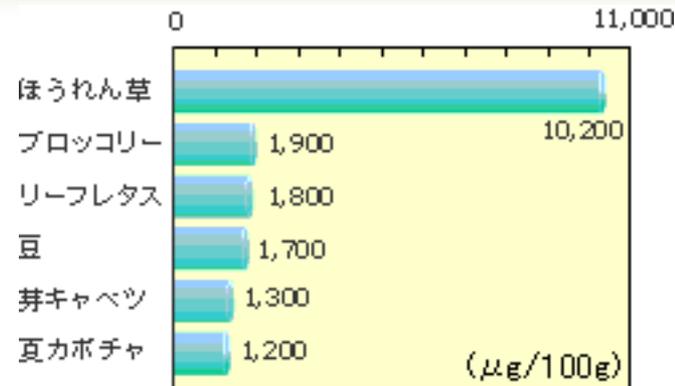


図: ルテイン(Lutein)を多く含む野菜のルテイン(Lutein)含有量

【ルテインは光に強い】

ルテイン(Lutein)は、光そのものを遮る役割があります。また、光の一部が細胞に達してしまい、細胞が光による酸化ダメージを受ける危険性が生じた場合でも、抗酸化作用によってこれを防止します。すなわち、ルテイン(Lutein)は遮光および抗酸化によって、「光防御における二重ブロック」を行っています。しかしながら、ルテイン(Lutein)の光防御はこれだけにとどまりません。ルテイン(Lutein)は青い光を吸収するという性質を持っています。

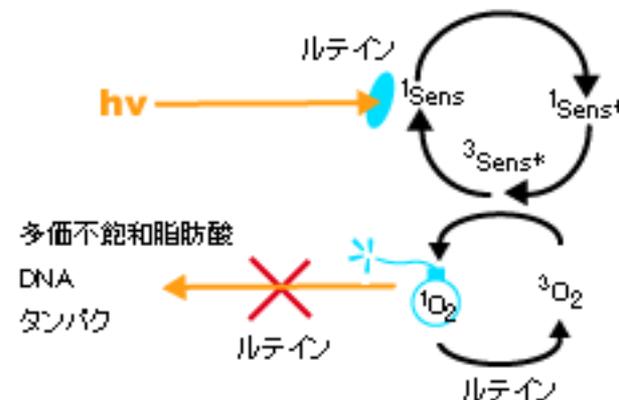
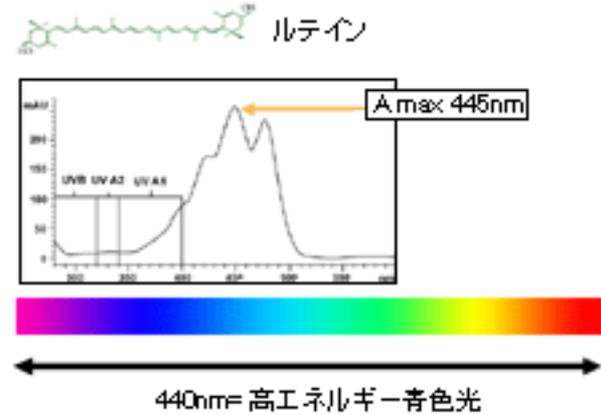


図: 光防御のメカニズム

ルテインは健康に役立つ成分として注目されています。

【青い光を吸収する】

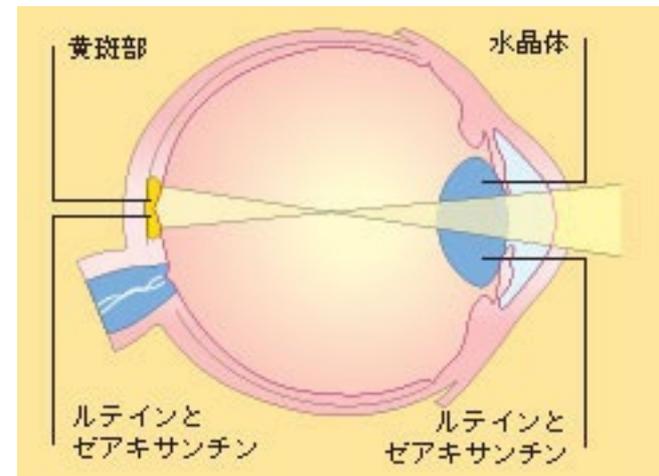
人に対して害を与える光線としては、紫外線が有名ですが、青い光は、光線の中で最も高いエネルギーを持つもので、細胞に与えるダメージも強力です。紫外線は太陽から照射されますが、青い光は、人工の光に多く含まれています。人工の光・・・蛍光灯、テレビ、パソコン、ゲーム・・・に囲まれて生活を送っている現代人は、日常的に高エネルギーの青い光にさらされていることとなります。特に眼は、外界に対してむきだしの臓器ですから、青い光からのダメージを直接受けることとなります。



図：特に青い光を吸収する

【ルテイン不足は眼病の一要因】

外界からの光を受けとめるレンズの働きをしている水晶体、その真後ろ、網膜の中心部に位置する黄斑部は、視覚機能にとってきわめて重要な役割を果たしています。これら部分にはカロテノイドのうち、ルテイン(Lutein)・ゼアキサンチンしか存在していません。ルテイン(Lutein)・ゼアキサンチンが、光による酸化ダメージから水晶体と黄斑部を守っているのです。



図：光防御のメカニズム

ルテインは健康に役立つ成分として注目されています。

では、もしも水晶体と黄斑部にルテイン(Lutein)・ゼアキサンチンが不足したらどうなるのでしょうか？水晶体においては白内障、黄斑部においては加齢黄斑変性症(AMD)といった眼疾患リスクにつながる実証されています。白内障や加齢黄斑変性症(AMD)は、加齢にともなって現れる疾患とみなされてきましたが、最近では若い世代の間でも起こりうる疾患となってきました。

現代人の生活環境、すなわち、栄養の偏った食生活、光の曝露量の拡大、ストレスなどによって、年齢を問わずに眼疾患リスクが高まってきていると言えるのです。

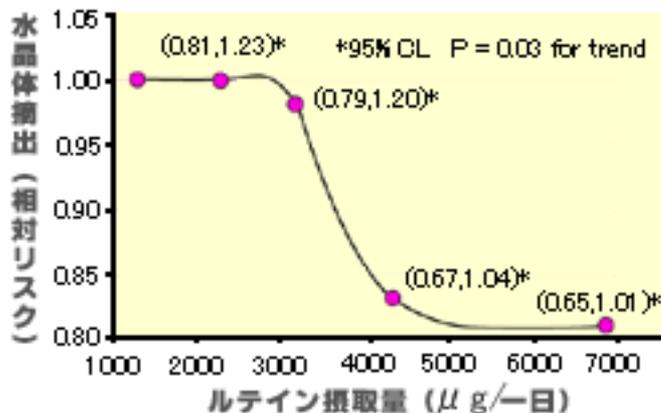


図:ルテイン不足は眼疾患リスクにつながる
(白内障)

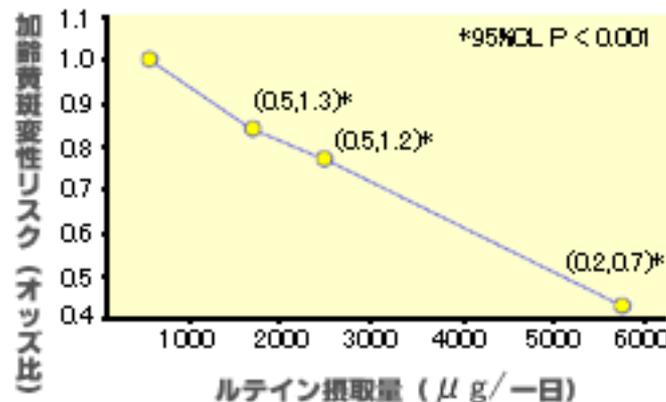


図:ルテイン不足は眼疾患につながる
(加齢黄斑変性症)

※ルテイン(Lutein)とゼアキサンチンはよく似た性質を持つ成分(異性体:同じ分子式をもちながら、異なった物理的・化学的性質をもつ化合物。分子内における原子の配列の仕方が異なるために起こる)ですが、抗酸化剤としての製品への利用を考えると、ルテイン(Lutein)利用のケースがゼアキサンチン利用を大幅に上回ります。ルテイン(Lutein)が代謝されるとゼアキサンチンになりますが、ゼアキサンチンからルテイン(Lutein)には代謝されず、「ルテイン(Lutein)あるところにはわずか数パーセントのゼアキサンチンが存在する」ということがわかっています。

※水晶体と黄斑部にはルテイン(Lutein)・ゼアキサンチンしか存在しない。

若返りの成分として知られる赤ワイン由来のレスベラトロール

●概要

南フランスローヌ渓谷産の赤ワインから分離抽出された赤ワインエキスです。今、注目のアンチエイジング成分「レスベラトロール(モノマー体として)」を含有しております。レスベラトロールは、長生きポリフェノールとして、ガン予防、痴呆症予防(アルツハイマー予防)、遺伝子保護効果など様々な効果で、ネイチャーやサイエンスでも報告され、大変注目を浴びています。また、ここ数年、アメリカアンチエイジング医学会(A4M)や日本臨床抗老化医学会でも、レスベラトロールの話題一色です。

赤ワインは、太古の昔から薬酒として活用されており、現在の科学技術によって、この赤ワインのアンチエイジング成分の秘密が少しずつ明らかになってきています。

●レスベラトロールの健康効果

- ◎美肌効果
- ◎細胞(肌や唇)を若々しく保つ効果
- ◎老化を防ぐ効果
- ◎メタボリックシンドロームを予防
- ◎ガン予防効果
- ◎放射線障害から体を防御
- ◎認知症の改善効果



レスベラトロールのガン予防効果

●概要

赤ワインに含有されるレスベラトロールの抗ガン作用は、1997年に科学雑誌サイエンスのJangらの報告によって、注目を浴びるようになりました。このJangらの報告では、レスベラトロールにガンの発現を抑制する効果があることを報告しています。その報告では、**発ガンの初発期(イニシエーション)、促進期(プロモーション)、悪性化(プログレッション)の3段階すべてをレスベラトロールが抑制することを報告しています。**マウスの皮膚ガンモデルにレスベラトロールを投与した結果では、**投与後18週で最高98%のガン細胞減少が認められています。**その抗ガン作用の有効濃度は0.7~5.7 μ g/mlであり、その量は赤ワイン換算で少なくとも1日1リットル以上になります。その量を毎日摂取するとアルコールの害がでてしまうため、アルコールを含まない抽出物などで摂取する方が好ましいと考えられます。そして、その後の研究で、イギリス デ・モントフォート大学のゲイリー・ポッター教授らは、このレスベラトロールの抗ガンメカニズムを解明しました。ポッター教授らの報告(British Journal of Cancer, 2002)では、レスベラトロールは、ガン細胞だけを死滅化し、ガンを抑制する効果があると報告されています。

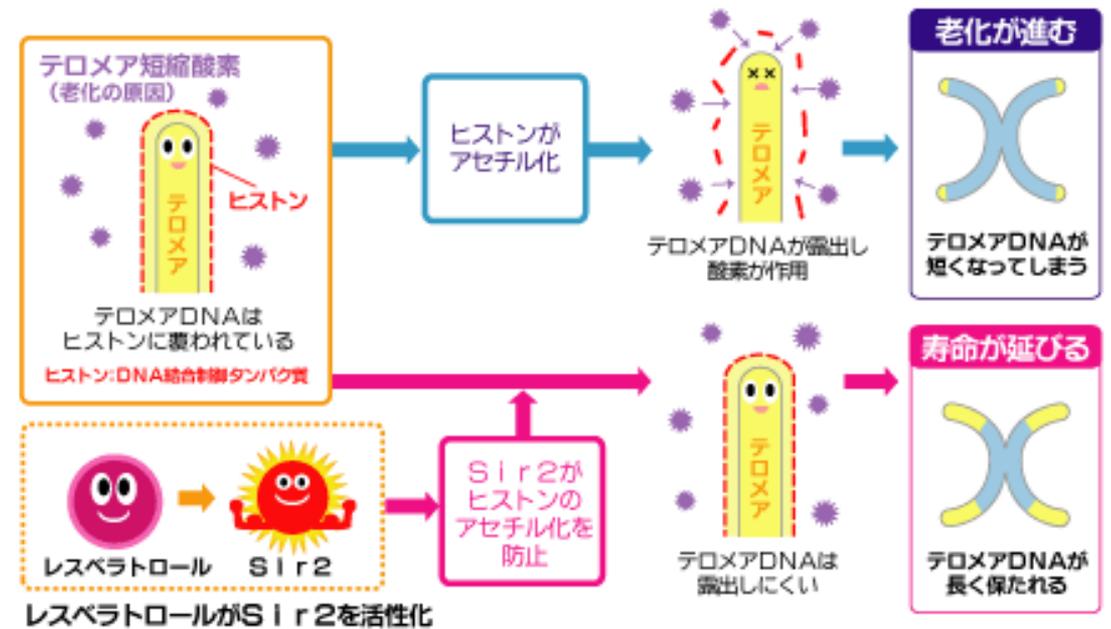
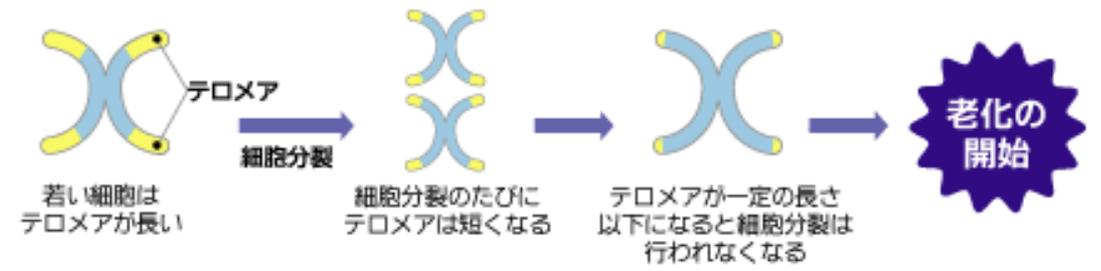
腫瘍細胞中に存在する「CYP1B1(シトクロムP450)」という酵素が、レスベラトロールを代謝すると、「ピセアタンノール(Piceatannol)」という、ガン細胞を死滅させる物質に変化させることが試験管実験で明らかになっています。ピセアタンノールが滞留した部位では、健全な細胞は全く無傷のまま何とガン細胞のみが死滅するという結果が示されています。



レスベラトロールの長生き効果

●概要
近年、米ハーバード大学医学部の研究チーム(Howitzら)により、2003年、科学雑誌ネイチャーで、レスベラトロールに寿命をのばす働きがあることを報告し、また、旭川医大の研究チームは、レスベラトロールに眼病予防の効果があることを報告し、一層その効果に注目が集まっています。このHowitzらの報告では、**レスベラトロールは、Sir2という酵素を活性化することによって、加齢と共に短くなっていくことが知られているテロメアDNAの寿命を延ばすと、報告しています。**細胞の染色体末端にあるテロメアDNAは、ヒストンと呼ばれるタンパク質に囲まれています。このヒストンがアセチル化されるとテロメアDNAは表面に露出するので、酵素の働きによって短くなってしまいます。ところが、Sir2と呼ばれる酵素は、このアセチル化を防ぎ、テロメアDNAを露出しにくい構造にするため、テロメアDNAが短くなるのを防ぎ、寿命をのばすことができるのです。

加齢による老化の開始 テロメア:細胞の寿命と老化を決定している染色体の末端部の構造



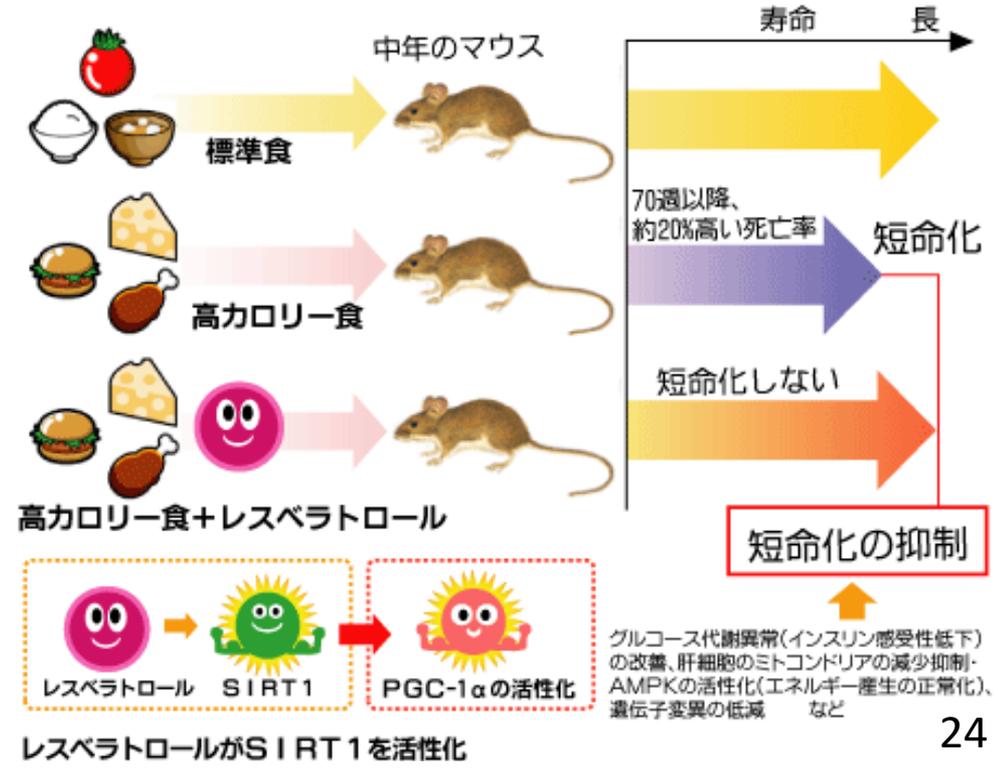
※Sir2は、哺乳類のSIRT1酵素と同じ働きをしている酵母特有の酵素

レスベラトロールによる健康と寿命の改善【高カロリー食での短命化抑制】

●概要

Howitzらは、レスベラトロールを酵母に作用させたところsir2酵素が活性化され、酵母の寿命が70%伸びたと報告しています。今までは、ラットやマウスなどで、カロリー制限によって寿命が延びることがわかっていましたが、この報告によりカロリー制限を行わなくても寿命を延ばすことがわかりました。さらに、レスベラトロールは高カロリー餌摂取マウスの健康を増進させ、寿命を延長させる効果も確認されています。Baurらは、科学雑誌Natureにて、高カロリー食を与えられているマウスに赤ワインに含まれるレスベラトロールを経口投与すると、低カロリーの食餌を与えられているときの生理的影響の多くを再現でき、健康と寿命に改善がみられることを明らかにしました。

この報告において、多施設の研究チームは、中年のマウスを標準食 (standard diet: SD) 群、高カロリー高脂肪食 (high-calorie, high-fat diet: HC) 群または高カロリー高脂肪食+レスベラトロール (high-calorie, high-fat diet plus resveratrol: HCR) 群に分けて実験を行いました。SD群と比較して、HC群では体重が着実に増加しました。さらに、HC群ではインスリン感受性の低下、運動機能の低下、肝肥大と脂肪肝、心筋の脂肪化と炎症、肝細胞のミトコンドリアの減少が認められました。また、60週を過ぎた頃より、有意に若い年齢で死亡が認められました。70週以降、HC群は、急激に死亡率が上昇し、SD群 (HCR群) に比べ約20%高い死亡率が認められました。これとは好対照に、HCR群でも体重は増加したが、これらの生化学的あるいは病理学的変化はいずれも認められませんでした。さらに、これらはSD群のマウスと同様に活発で、長く生存しました。結果、レスベラトロールは、HC食によって生じた153の遺伝子変異のうち144を予防しました。



レスベラトロールの痴呆症予防効果

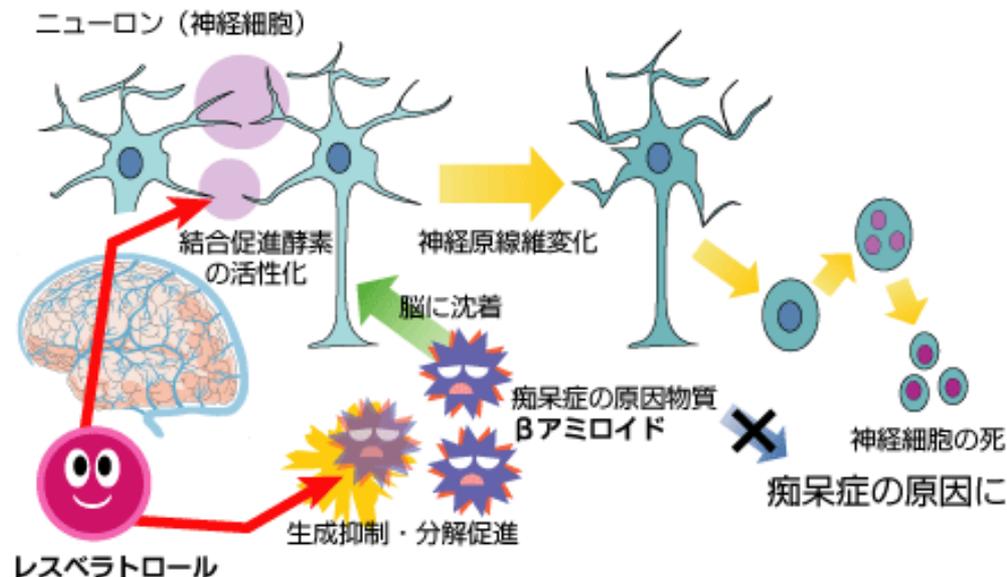
●概要

1998年に、Lemeshowらは、ワインの摂取と痴呆症の発症について、3年間にわたる調査を行いました。その結果、65歳以上で、ワインを250cc以上飲んでいる人が痴呆症になりにくいというデータが示されました。飲んでいたワインも、ポリフェノールを豊富に含む赤ワインが中心であったと、推測されます。その後、赤ワインに含まれるポリフェノールの中でも、レスベラトロールが痴呆症のリスク低減を促す物質の1つであることが明らかになり、レスベラトロールの痴呆症に対する効果の研究が数多く行われるようになりました。

さらに、最近注目されているsiRNA技術を用いた検討により、レスベラトロールのβアミロイド分泌抑制メカニズムは、細胞内でβアミロイドが分解されていること示されました。さらに、英科学誌ニューサイエンティストは、βアミロイドを分解促進するのとは別なメカニズムで、毎日グラス1杯半(250～300cc程度)のワインがアルツハイマー病やパーキンソン病などの脳の病気(痴呆症)にかかりにくくする可能性があるとして、イタリア研究チームが報告しています。

その報告において、ミラノ大学のチームは、神経細胞を刺激し再生させる働きを持つ酵素の活性を7倍も高める化学物質が、ブドウとワインに多く含まれていると述べています。

同チームによると、レスベラトロールは、人間の神経細胞を用いて実験を行った結果、レスベラトロールは、脳細胞(ニューロン)同士を結びつける触手(樹状突起dendrite)の再生をさせる酵素の働きを7倍にする働きがあることがわかりました。これは老人の記憶力を再び高める働きと同じとしている報告しています。これらの結果より、レスベラトロールが脳を活性化し、痴呆症の予防に役立つ可能性を示唆しています。



フレンチ・パラドックスとは？

●概要

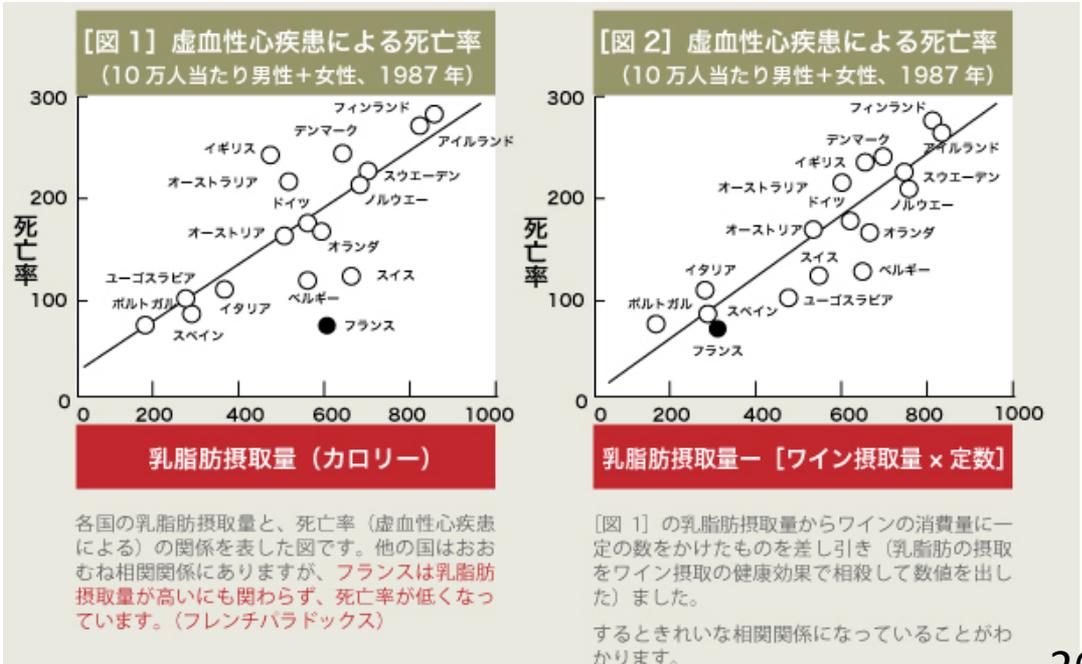
欧米諸国で高頻度にみられる冠動脈硬化疾患の死亡率と高脂肪摂取（特に動物脂肪の摂取量）との間には、一般的に正の相関がみられます。しかし、フランスでは、高脂肪摂取量に比べ、冠動脈硬化疾患の死亡率が低いことをフレンチ・パラドックスと言います。

フランスにおける冠動脈硬化疾患の死亡率は 10 万人当たり男性 94 人女性 20 人と少ないという結果が得られています。この値を死亡率が 1 位の北アイルランド（男性：406 人、女性：142 人）と比較すると、男性で約 1/4 女性で 1/7 とフランスの値が低いことがわかります。フランスにおける冠動脈硬化疾患の低い死亡率は、フランス人が愛用し、世界一消費している赤ワインの健康成分によるものと良く説明されています。

二つの図は、フランス人は、乳脂肪摂取量が多いのにも関わらず、死亡率が低い[図1]こと、乳脂肪摂取量の危険性が赤ワインの健康効果で低くなっている[図2]ことを表しています。

赤ワインが心疾患を防ぐ可能性の発表は、大反響となり、赤ワインの健康ブームを呼び起こしたほどです。

こうした赤ワインの健康効果は、赤ワインに含まれるレスベラトロールの作用であるとも言われています。



各種栄養素の吸収効率を大幅にアップ

● 概要

バイオペリン®は *Piper nigrum L* (黒コショウまたはブラックペッパー) の果実からの抽出物です。黒コショウにはピペリンと呼ばれる成分が含まれておりますが、このピペリンが多くの各種栄養素の吸収を増加させる作用をもつことが示されました。ピペリン(Piperine) は黒胡椒や長胡椒(ヒハツ)の果実に含まれる辛みの主成分。

天然の状態の黒コショウは、ピペリンを最大で9%程度しか含有しませんが、独自の製法により、95%以上まで抽出、精製された製品がバイオペリン®です。

脂肪燃焼や食欲増進、エネルギー代謝の促進、血管を広げて血流を良くする作用があるため、冷えや肩こりに効果があります。バイオペリンが配合されたサプリメントは体内の吸収率を高める特徴をもっています。

黒コショウの主要有効成分であるピペリンは、長年の研究と臨床試験を通じ、下記のような多くの栄養素の体内への吸収を促進させ、その生体内利用能(Bioavailability)を著しく増強させることが示されています。

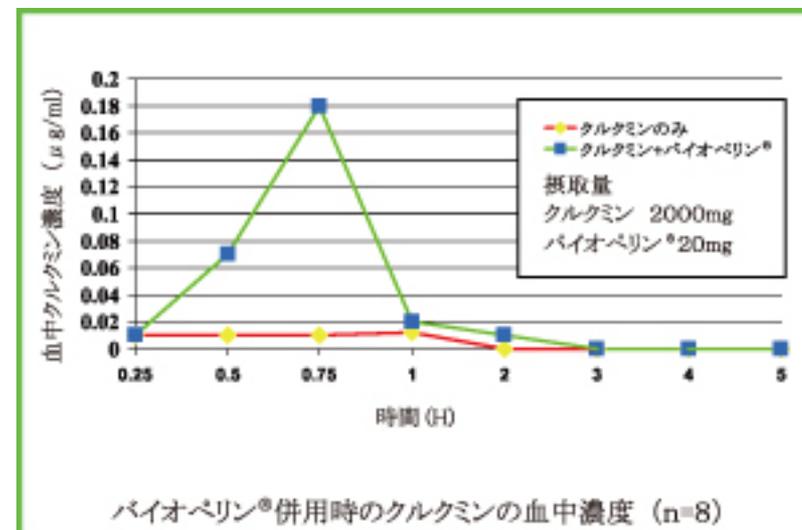
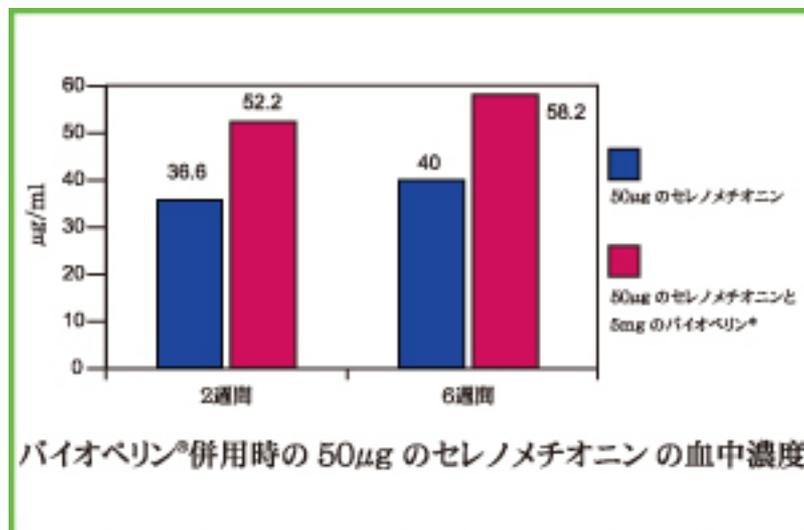
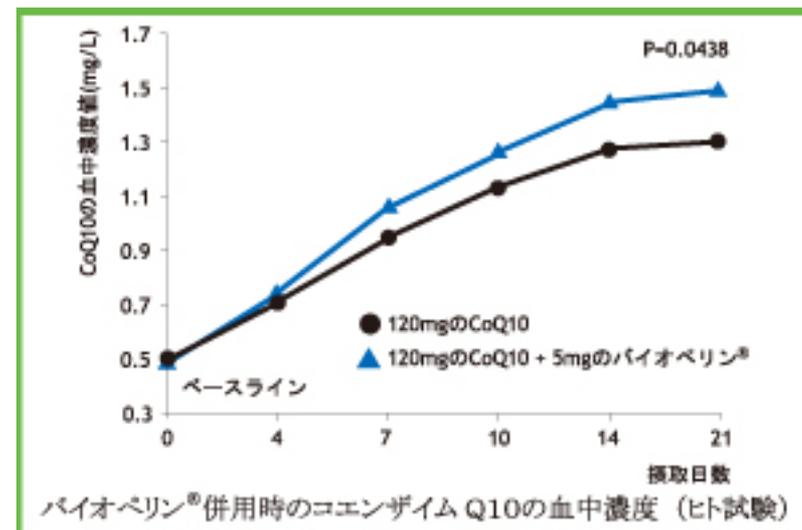
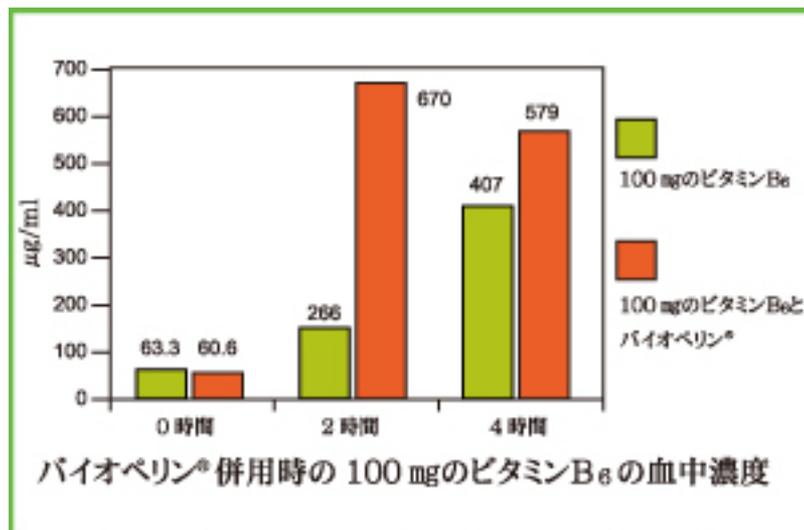
ハーブエキス・ビタミン類・アミノ酸・ミネラル
・CoQ10を吸収促進！

 **BIOPERINE®**



黒胡椒 (*Piper nigrum L.*)

バイオペリン®併用時の吸収促進が期待される栄養素





POWEARTH
Power of Our Mother Earth